



## 2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年8月7日

上場会社名 株式会社中村屋 上場取引所 東  
 コード番号 2204 URL <https://www.nakamura.co.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 島田 裕之  
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員（氏名） 弘中 雅裕（TEL） 03-5325-2733  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満四捨五入）

## 1. 2025年3月期第1四半期の業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	5,637	3.0	△966	—	△951	—	△649	—
2024年3月期第1四半期	5,471	2.9	△1,293	—	△1,281	—	△953	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△111.82	—
2024年3月期第1四半期	△159.96	—

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	42,032	25,738	61.2
2024年3月期	43,518	26,606	61.1

（参考）自己資本 2025年3月期第1四半期 25,738百万円 2024年3月期 26,606百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	—	—	60.00	60.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	65.00	65.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	13,000	2.2	△2,100	—	△2,000	—	△1,400	—	△235.83
通期	38,000	0.6	900	8.4	1,060	6.5	670	65.4	112.86

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2025年3月期1Q	5,976,205株	2024年3月期	5,976,205株
2025年3月期1Q	169,342株	2024年3月期	169,286株
2025年3月期1Q	5,806,887株	2024年3月期1Q	5,960,224株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期損益計算書関係) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期累計期間の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善に伴い、景気は緩やかな回復がみられるものの、物価高騰から実質賃金上昇に至らず個人消費は弱く、先行きの不透明な状況が続いております。また、企業を取り巻く環境は、原材料・エネルギー価格高騰に加え人手不足など、依然として厳しいものとなっております。

このような状況の中、当社は経営理念「真の価値を追求し、その喜びを分かち合う」の実現を目指し、前中期経営計画を「中期経営計画－中村屋2027ビジョン－」として刷新し、基本方針「理念経営の実践」「バリューチェーン・インフラの再構築」「ブランド・人材育成への投資」「『くらしに溶け込む食』による価値創造」に沿い、目標達成に取り組んできました。その結果、当第1四半期累計期間の売上高は、5,637,297千円 前年同期に対し166,684千円、3.0%の増収となりました。

利益面につきましては、営業損失は965,711千円 前年同期に対し326,823千円の改善、経常損失は951,437千円 前年同期に対し329,203千円の改善、四半期純損失は649,322千円 前年同期に対し304,070千円の改善となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 菓子事業

菓子類では、バックデザート「夏いろか」「豊味果実ゼリー」を新発売し、高まる手土産需要に対応するとともに主力商品の品質改良を実施しました。また、「ベイクドショコラトリー」ブランドの新商品「さくさくのショコラクリスピー」「カカオ香るショコラパイ」を新発売して、カジュアルギフトへの取組みを強化しました。自家用菓子では素材や製法にこだわった和菓子のシリーズ「逸品どら焼」「逸品カステラ」の拡販に努めました。

中華まんじゅう類では、量販店販路に展開している中華まんをお客様の用途・ニーズに合わせ春夏時期における継続販売を強化しました。また、料理家との共同開発商品「担々肉まん」を発売し、春夏での中華まんの需要訴求を行いました。コンビニエンスストア販路向け中華まんは、一部店舗において「肉まん」「あんまん」「ピザまん」「豚まん」の販売を継続するとともに、8月下旬の改良発売に向けて商品の企画開発、取引先商社への提案を推進しました。

新宿中村屋ビル「スイーツ&デリカBonna(ボンナ)」では人流回復等により自家用菓子「逸品どら焼」の売上が大きく増収しました。また、お客様のニーズに応え「カレーパン」「クリームパン」を始めとするパン類の販売を強化したことが売上増収につながりました。通信販売では前年に引き続き春夏の中華まん訴求効果と新商品投入により新規のお客様を取り込み、好調に推移しました。

以上のような営業活動を行った結果、菓子事業全体の売上高は3,118,429千円、前年同期に対し145,078千円、4.4%の減収となったものの、営業損失は755,925千円、前年同期に対し54,844千円の改善となりました。

#### ② 食品事業

市販食品では、原材料高騰などの厳しい環境が続く中で、市場ニーズを見極め専門店のような“濃密な濃厚感”が味わえるレトルトカレー「THE濃厚」シリーズを2月に発売し、味わいと価格のバリエーションを強化するとともに、関西エリアでも積極的な営業活動を展開し、売上高の確保を図りました。また、純インド式カレーの発売日を記念した販促キャンペーンを企画し、主力商品である「インドカレー」シリーズ拡販に努めました。麻婆豆腐においても食イベントに積極的に参加し品質のアピールを図るなど、認知拡大の取組みを推進いたしました。

業務用食品では、引き続き飲食需要の回復への対応と中食販路への積極的な提案活動を実施し、大幅な増収を図りました。コンビニエンスストア販路向けカレーにおいては、お取引先様の大型販促にバリューチェーン一体で商品供給に対応し、食数増加による拡販を果たしました。また、新たな中食販路として取り組んだ大手小売業向けのレトルトカレーが売上を堅調に伸ばすなど、戦略に掲げる中食販路売上高比率を高める活動を徹底して実施いたしました。

新宿中村屋ビル「レストラン&カフェManna(マンナ)」「カジュアルダイニングGranna(グランナ)」は新宿中村屋ビル10周年を迎え「10周年記念メニュー」を販売いたしました。直営レストラン「オリーブハウス」では、お客様ニーズに対応したメニューを販売し増収となりました。また、販売開始から97年を迎えた「純印度式カレー」を中心にカレー類が外国人観光客にも受け入れられ、販売増となりました。

以上のような営業活動を行った結果、食品事業全体の売上高は2,281,237千円、前年同期に対し222,797千円、

10.8%の増収となり、営業利益は262,799千円、前年同期に対し164,224千円の増益となりました。

### ③ 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業では、商業ビル「新宿中村屋ビル」において快適で賑わいのある商業空間の提供に努め、満室稼働を維持しました。

また、武蔵工場内の一部遊休地について、事業用定期借地権を設定契約したことによる地代収入に加え、昨年8月には旧東京事業所跡地の再開発に伴う一般定期借地権設定契約を締結するなど、保有する土地を有効活用しました。

以上のような営業活動を行った結果、売上高は237,632千円、前年同期に対し88,966千円、59.8%の増収となり、営業利益は127,099千円、前年同期に対し72,812千円の増益となりました。

## (2) 当四半期累計期間の財政状態の概況

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末における総資産は、商品及び製品の増加489,869千円、原材料及び貯蔵品の増加362,811千円、投資有価証券の増加191,828千円等がありましたが、売掛金の減少2,270,098千円、建物の減少123,364千円等により、前事業年度末に比べ1,485,470千円減少し、42,032,058千円となりました。

負債は、短期借入金の増加1,500,000千円等がありましたが、賞与引当金の減少575,955千円、買掛金の減少314,054千円、未払法人税等の減少275,190千円等により、前事業年度末に比べ618,009千円減少し、16,293,802千円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の増加130,452千円等がありましたが、四半期純損失649,322千円、剰余金の配当348,415千円による利益剰余金の減少等により、前事業年度末に比べ867,461千円減少し、25,738,257千円となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ、92,256千円増加し、1,228,770千円となりました。

区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、913,850千円の支出となりました。これは主に、売上債権の減少額2,270,098千円等があったものの、税引前四半期純損失△955,409千円、棚卸資産の増加額△847,540千円、賞与引当金の減少額△575,955千円、仕入債務の減少額△314,054千円等があったことによるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、159,625千円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出△146,500千円等があったことによるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、1,165,713千円の収入となりました。これは主に、配当金の支払額△311,519千円等があったものの、短期借入金の純増加額1,500,000千円等があったことによるものです。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の第2四半期累計期間及び通期の業績予測につきましては、2024年5月15日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,138,678	1,230,006
売掛金	4,995,793	2,725,695
商品及び製品	1,463,588	1,953,458
仕掛品	66,240	61,100
原材料及び貯蔵品	2,370,403	2,733,214
その他	500,630	388,120
流動資産合計	10,535,334	9,091,593
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	7,793,859	7,670,495
構築物(純額)	690,752	677,304
機械及び装置(純額)	2,313,197	2,284,027
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	225,293	215,232
土地	13,072,558	13,072,558
リース資産(純額)	1,121,706	1,058,869
建設仮勘定	5,714	17,480
有形固定資産合計	25,223,078	24,995,965
無形固定資産		
その他	185,574	185,657
無形固定資産合計	185,574	185,657
投資その他の資産		
投資有価証券	6,426,008	6,617,836
関係会社株式	536,056	536,056
その他	613,109	606,581
貸倒引当金	△1,631	△1,631
投資その他の資産合計	7,573,542	7,758,843
固定資産合計	32,982,194	32,940,465
資産合計	43,517,528	42,032,058

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,351,447	1,037,392
短期借入金	2,500,000	4,000,000
リース債務	82,163	78,469
未払金	1,468,064	1,207,712
未払費用	524,927	599,952
未払法人税等	300,218	25,028
賞与引当金	849,534	273,579
その他	645,500	377,286
流動負債合計	7,721,853	7,599,419
固定負債		
リース債務	397,438	378,539
繰延税金負債	3,308,393	3,065,691
退職給付引当金	1,310,079	1,157,929
資産除去債務	257,460	257,745
長期前受収益	3,383,626	3,302,657
受入保証金	532,960	531,822
固定負債合計	9,189,957	8,694,383
負債合計	16,911,811	16,293,802
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,469,402	7,469,402
資本剰余金		
資本準備金	6,481,558	6,481,558
その他資本剰余金	1,688,664	1,688,664
資本剰余金合計	8,170,223	8,170,223
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	3,185,823	3,167,362
別途積立金	5,204,932	5,204,932
繰越利益剰余金	394,538	△584,738
利益剰余金合計	8,785,294	7,787,556
自己株式	△548,484	△548,660
株主資本合計	23,876,434	22,878,521
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,729,284	2,859,735
評価・換算差額等合計	2,729,284	2,859,735
純資産合計	26,605,718	25,738,257
負債純資産合計	43,517,528	42,032,058

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)
売上高	5,470,612	5,637,297
売上原価	4,154,361	4,059,172
売上総利益	1,316,252	1,578,125
販売費及び一般管理費		
販売費	1,974,158	1,944,152
一般管理費	634,628	599,685
販売費及び一般管理費合計	2,608,786	2,543,836
営業損失(△)	△1,292,535	△965,711
営業外収益		
受取配当金	8,427	10,782
受取保険金	5,277	5,385
その他	6,401	9,007
営業外収益合計	20,105	25,173
営業外費用		
支払利息	8,069	3,671
控除対象外消費税等	—	6,959
その他	141	268
営業外費用合計	8,210	10,899
経常損失(△)	△1,280,639	△951,437
特別利益		
固定資産売却益	100	—
特別利益合計	100	—
特別損失		
固定資産売却損	30	—
固定資産除却損	2,670	1,795
減損損失	—	2,178
環境対策費	89,770	—
特別損失合計	92,470	3,973
税引前四半期純損失(△)	△1,373,009	△955,409
法人税、住民税及び事業税	6,627	△5,899
法人税等調整額	△426,245	△300,188
法人税等合計	△419,617	△306,087
四半期純損失(△)	△953,392	△649,322

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)
	当第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純損失 (△)	△955,409
減価償却費	369,024
減損損失	2,178
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△575,955
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△152,150
受取利息及び受取配当金	△10,782
支払利息	3,671
為替差損益 (△は益)	7
有形固定資産除却損	1,795
売上債権の増減額 (△は増加)	2,270,098
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△847,540
仕入債務の増減額 (△は減少)	△314,054
未払金の増減額 (△は減少)	△287,286
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△181,931
前受収益の増減額 (△は減少)	△74,651
長期前受収益の増減額 (△は減少)	△80,970
その他	45,800
小計	△788,157
利息及び配当金の受取額	82,480
利息の支払額	△3,586
法人税等の支払額	△204,588
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△913,850</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の払戻による収入	928
有形固定資産の取得による支出	△146,500
無形固定資産の取得による支出	△9,429
投資有価証券の取得による支出	△3,891
投融資による支出	△1,311
投融資の回収による収入	578
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△159,625</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,500,000
リース債務の返済による支出	△22,593
自己株式の増減額 (△は増加)	△175
配当金の支払額	△311,519
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,165,713</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	19
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	92,256
現金及び現金同等物の期首残高	1,136,514
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,228,770

## (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

業績の季節的変動

当社の売上高は、主力商品の特性から冬季に需要が高く、第1四半期を含む上半期(4月～9月)と下半期(10月～3月)の業績に季節的変動が生じております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

## I 前第1四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	菓子事業	食品事業	不動産 賃貸事業	
売上高				
一時点で移転される財又はサービス	3,263,507	2,058,440	—	5,321,947
顧客との契約から生じる収益	3,263,507	2,058,440	—	5,321,947
その他の収益	—	—	148,666	148,666
外部顧客への売上高	3,263,507	2,058,440	148,666	5,470,612
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	3,263,507	2,058,440	148,666	5,470,612
セグメント利益又は損失(△)	△810,769	98,575	54,287	△657,906

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	△657,906
全社費用(注)	△634,628
四半期損益計算書の営業損失(△)	△1,292,535

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	菓子事業	食品事業	不動産 賃貸事業	
売上高				
一時点で移転される財又は サービス	3,118,429	2,281,237	—	5,399,665
顧客との契約から生じる収益	3,118,429	2,281,237	—	5,399,665
その他の収益	—	—	237,632	237,632
外部顧客への売上高	3,118,429	2,281,237	237,632	5,637,297
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	3,118,429	2,281,237	237,632	5,637,297
セグメント利益又は損失(△)	△755,925	262,799	127,099	△366,027

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	△366,027
全社費用(注)	△599,685
四半期損益計算書の営業損失(△)	△965,711

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「食品事業」セグメントにおいて、当初想定していた収益が見込めないため、一部の店舗において減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期累計期間において2,178千円であります。